

おかあさんのお手伝い

熊野東中学校道徳教育推進委員会

私が、小学校6年生の時、おかあさんは脳こうそくという病気で倒れた。命は助かったものの手や足に障がいが残ってしまった。おかあさんは、毎日ゆっくりと洗濯や料理などの家事をこなしている。

私は、おかあさんが病気になって以来、母のお手伝いをやることにしている。

だって、おかあさんのことを愛しているんだもん。

おかあさんは、私が手伝おうとしたとき、

「おかあさんができることだから、お手伝いしなくても大丈夫なのよ。」と言う。

けれど、私は「いいの、いいの、おかあさんはゆっくりしていい。」と言うようにしている。

だって、おかあさんは私のために、これまでたくさん愛情を降り注いでくれたんだもん。

私が、小さい頃友達とけんかしたとき、優しく相談にのってくれた。

私が、公園でこけてけがをして泣いているとき、家まで私をおんぶしてくれて帰って治療をしてくれた。

私が、わがままを言って、家族を困らせているとき、笑顔で「幸子が納得するまで待つわよ。」と優しく包み込んでくれた。

だから、私はおかあさんに恩返しをしたいの。おかあさんがお手伝いをしなくても大丈夫なのよ」と言っても、私はおかあさんのお手伝いを一生懸命やるの。

ねえ、おかあさん、私はずっとおかあさんのお手伝いをするよ。ねえ、いいでしょ。おかあさん、ずっと一緒にいようね。」